読売俳壇

高野ムツオ 選

子には子のスマホの世界鳴く蛙　東京都　小松　貴志

【評】お子さんのことだろう、世代に限らずスマホに浸る人は多い。いわゆる想像空間だ。蛙は蛙の世界で必死だが、こちらは実にリアルな愛の世界。イロニーに満ちている。

青空にミモザ青空にミサイル　千葉市　宇野嘉世子

【評】同じ青空なのに、ミモザが揺れる平和な空とミサイルが飛ぶ恐ろしい空がある。「青空」の繰り返しに、その矛盾への訴えがある。

撃つ兵も撃たるる兵や雑木の芽　八幡市　会田重太郎

【評】撃つ兵と撃たれる兵がそれぞれ別なのではなく、同じ存在なのだという指摘が戦争の傷ましさを訴えている。雑木の芽が実に暗示的。

砂浴びのかすかなくぼみ雀の子　東京都　吉村　恵子

うららかや泥捏ねアダム生れしと　八王子市　徳永　松雄

なほ生くる大川小の桜かな　さいたま市　関根　道豊

菜の花になってゐる子やかくれんぼ　香川県　福家　市子

飽きる程桜餅食べ年とりぬ　東京都　内田　恵子

ふるさとに残る友らと青き踏む　大阪市　今井　文雄

自動ドアに墨痕淋漓「桜餅」　名古屋市　服部津年治

正木ゆう子 選

方角に自信たっぷり風船ゆく　東京都　望月　清彦

【評】目的地へ向かって飛ぶ鳥や飛行機と違って、風船のゆく方角は風まかせ。それなのに「自信たっぷり」なのが愉快。人もたまには風まかせで生きてみては、と思わせる句。

この薫りわたしなのよと辛夷咲く　八街市　鈴木　てい

【評】辛夷の薫りは淡くて、とても控え目である。何が薫っているのだろうと見回す人に、辛夷の木が「私よ、私なのよ」と誇らしげに言う。

今は只とても仕合はせ母子草　東大阪市　木田　博幸

【評】句の裏側を、季語から推察すれば、昔は母子で苦労したけれど、と読める。一見平明な句だが、「只」一字の味わいで、格別な句に。

弁当の蓋を閉じけり花吹雪　横浜市　塚本　文武

大画面に語らるる夢卒業子　浜田市　大島一二三

三極の花焼畑の合図かな　津　市　中山　道春

トランペット三月十一日の海へ　宇陀市　泉尾　武則

嘘の世に意味の無くなる万愚節　南房総市　山根　徳一

思ふだけの人を想ひぬ春の雪　横浜市　菅沼　葉二

げんげ田や大きな青い空だった　酒田市　兵田　一子

小澤　實 選

丸窓に遺影となりて卒業す　高槻市　村松　譲

【評】在学中に逝去してしまった友人は、卒業写真の丸窓に遺影として載せられていた。ともに生きて卒業の日を迎えたかったという強い思いを写真という「もの」に託す。

キーマカレーの真中へたまご春灯　小諸市　藤　雪陽

【評】キーマカレーとは、挽き肉を使ってつくったカレー。「たまご」はひらがな表記、半熟玉子を暗示する。春灯の光が黄身を照らす。

春落葉積もりて水の深さかな　日立市　菊池二三夫

【評】深さのある池の底に、春落葉が厚く積もっている。池のほとりの木から落ちて、時間をかけて積もったのだろう。澄んだ水も魅力。

正面に富士見ゆる日や芝桜　相模原市　はやし　央

紅椿咲き充ちるなり落花の上　瑞浪市　岩島　宗則

銅像にまずは一礼新社員　東京都　伊藤　直司

ものの芽や土竜よぎりし跡もあり　会津若松市　安藤　和繁

重箱のからの重さよ花疲れ　福山市　松崎　映子

大飛球つくしの土手を消えにけり　太田市　黒沢　俊寿

雪解水橋に砕けぬがうがうと　さいたま市　あき坊

津川絵理子 選

パソコンをインコとのぞく春休み　東村山市　鈴木　忠

【評】パソコンに向かうと、なぜかペットが邪魔しにくる。好奇心旺盛なインコが画面を覗きにきたのだ。一緒にパソコンを見る楽しい時間。インコの愛らしい仕草を思う。

花見客全部攫ってバス発てり　神奈川県　石原美枝子

【評】観光バスなのだろう。花見が終わると全員バスで帰る。バスを擬人化した見立てが面白い。あとは静かな桜が残されるだけなのだ。

あんな人だったかしらと春の夢　鎌ヶ谷市　海野　公生

【評】夢の中で久しぶりに会えた嬉しさと、少しの戸惑い。夢から覚めて、ふと口をついて出た言葉の軽やかさが、「春の夢」に合う。

北窓を開けて運気を入れ替へる　熊谷市　間中　昭

週一で来る山の畑初雲雀　大分市　加藤　元二

下萌やつぐみ幾度も立ち止まり　越谷市　安居院半樹

よく泣く子泣かなくなりて卒園す　春日部市　相沢　明子

鷹化して鳩となる日の休戦日　土浦市　今泉　準一

列なして黒靴来る花の寺　東京都　天地わたる

龍天に登る奇跡の一本松　前橋市　豊嶋啓一朗

おことわり　3月9日歌壇に掲載された「恐竜が驚くほどの恋をしたあとの我らは滅びるだけだ」と、4月6日歌壇に掲載された「特急が速度落さず過ぎゆける小さな駅の町に老いゆく」は類似作があるため入選を取り消します。

入選取り消しについて

最近、二重投稿や類似作が多く見受けられます。「読売俳壇・歌壇」では、次のような入選取り消し規定を設けています。

①明らかな盗作の場合

②応募作品が、すでに発表されている作品の類似作と認められた場合

③応募作品が二重投稿の場合

以上に該当することが明らかになった場合、故意かどうかにかかわらず入選を取り消します。

また、複数の選者、本紙地域版をはじめ、他の新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、ネット、SNS（Xやインスタグラム）などの媒体に、同一作品、類似作品を二重に投稿することも絶対におやめください。応募の際には作品を十分に見直したうえで投稿してください。

題字デザイン・イラスト　福田美蘭